

鳥獣センター通信

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

鳥獣被害対策マイスター 新たに53名を認定予定！

県では、平成22年度から鳥獣被害対策マイスター認定研修を開催しており、今年度も8月から10月の間にかけて開催しました。

これは、県内各地域で鳥獣被害対策を効果的に実施するため、受講生に野生鳥獣の生態や正しい被害防止対策に関する知識を身につけてもらうため、座学と現地実習のすべての研修を受講して、最終試験に合格された方を、鳥獣被害対策マイスターとして認定するものです。

受講者は、県の職員（普及指導員等）や市町村をはじめ農協、森林組合及び農業共済組合等の方々となっており、今年度は新たに53名が認定される予定です。



室内研修の様子



電気柵設置実習の様子



集落環境点検の様子

この認定研修では、座学研修でマイスターの役割や鳥獣被害対策の基礎知識、各種害獣の行動特性と対策等について学習してもらいました。

また、現地実習では、野生鳥獣追いや払い器具の作成や、電気柵等の防護柵の設置技術等を習得してもらいました。さらに、集落環境点検では、実際に集落の現場を点検し、その結果を班に分かれて協議した後、診断結果を発表してもらおう等、地域での普及啓発活動に役立つ技術を身につけてもらいました。

今回、マイスターに認定されましたら、是非、今後、各地域における技術指導者として、中心的な存在となっていただくことを期待しています。

アライグマ県内初捕獲！発見したら連絡を！

特定外来生物であるアライグマについては、センター通信（平成26年10月号）でも注意喚起していたところですが、9月11日、日之影町見立地区の山林で、雄のアライグマ1頭が県内で初めて捕獲されました。アライグマは、農作物の食害ばかりでなく、家の屋根裏や空き家などに住み着くと、糞尿により悪臭がするなど、不衛生な状態になり、生活環境被害も引き起こします。

繁殖力も旺盛で、1回につき3〜6頭を出産し、国内には天敵がないため、増え続けてしまうことが懸念されます。また、性格が凶暴なので、不用意に捕獲しようとしたらすると、噛みつかれる危険がありますので、特に注意してください。発見したら、支庁・振興局や市町村役場などに連絡をお願いします。



前足

後足

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵（北部）地域

○延岡市北川町鏡山牧場飼料畑における簡易電気柵の効果実証について

東臼杵地域（北部）特命チームでは、農林技連東臼杵北部支部飼料作物部会と連携し、平成26年10月に、延岡市北川町の鏡山牧場内の飼料畑にて、鳥獣被害防止技術モデル実証展示ほ事業を活用し、「簡易電気柵による飼料畑の被害防止対策展示ほ」を設置しました。

設置場所の鏡山牧場周辺は、管内でもシカやイノシシの生息密度が高い地域で、展示ほ設置前には、シカ等の食害により飼料用作物の作付けができず、スキヤイヌタデなどの雑草が生い茂り大変荒れた状態でした。展示ほは、支柱に低コスト資材のダンボールを用い、電線を20cm間隔の6段張りにした電気柵で飼料畑を囲いました。また、電気柵下の雑草対策として、抑草シートを設置しました。施工は、生産者および関係機関職員約20名で行いました。経費は一切で18万円/20a程かかりました。（ソーラー式電牧器を含む）

柵の設置後に、飼料畑約20aにイタリアンライグラスを播種し、その後は、生産者、普及センタ



現地検討会

1及び北川町総合支所職員で柵の保全状態及びイタリアンの生育状況を定期的に観察し、随時点検・保守作業を行いました。点検では、シカ等の接触による電線のズレやたわみが見られました。また、抑草シートを設置したことにより、期間を通じ特に大きな問題は発生しませんでした。また、抑草シートを設置したことにより、電気柵下の草管理が省略できました。そして、播種したイタリアンライグラスは、シカによる食害等を受けることなく順調に生育し、十分な収量を確保することができました。収穫前の平成27年4月には、関係機関を参集して、展示ほの現地検討会を開催し、関係職員の間で対策の効果があつたことを共有しました。生産者も電気柵の効果を実感し、9月には、作付け面積を拡大されました。今後は、管内の畜産農家等に対し、展示ほの効果のPRを積極的にを行い、取組を波及させ、

自給飼料の増産、ひいては畜産経営における生産性向上に役立てていきたいと思

西諸島地域

○中型動物の農作物被害防止柵「楽落くん」の防護効果の実証

高原町の霧島狭野原営農組合は、水稲の作業受託と野菜生産に取り組んでいます。昨年は、スイートコーンの栽培に取り組みましたが、アナグマ等の中型獣による被害で、収穫皆無となったため、本年は埼玉県農業技術研究センターが開発した「楽落くん」を設置し、効果の実証を行いました。

「楽落くん」は、写真1のように高さ30cm程度のプラスチック製の低い柵と、その数cm上に電線を設ける複合柵です。中型獣が低い柵の場合に柵の上から侵入する習性を利用し、柵の上部で感電させる仕組みです。

設置後、柵の下側（地際部）を破って侵入したため、地上5cm程度の高さにも電線を追加（上段と下段の2力所に電線を設置・写真2）したところ、それ以後の侵入を防ぐことができました。

設置に要した費用は、電気柵本体を除いて300円/m程度で、作業時間は約100mの柵を設置するのに、3名で3時間弱と手軽に設置できました。撤去も簡単で他のほ場への移設も



写真2：改良後
柵の下側（矢印部分）にも電線を追加設置し、下側からの侵入を防止するよう改良



写真1：楽落くん
高さ30cm程度のプラスチックの柵の上部に電線が設置
今回は、○印の部分（柵の下側）から侵入が見られた

容易に行えます。現在、各地区で中型動物による被害防止に、「楽落くん」の様な設置が省力的な柵は対策の一つになると考えられ、今回のように獣種に応じて、柵の形状も変更することも検証しながら普及を図っていくこととしていきます。